

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	特定非営利活動法人 ソーシャルサポートセンターひょうご 児童発達支援わかば			
○保護者評価実施期間	2025年 10月 15日		～	2025年 11月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24名	(回答者数)	24名
○従業者評価実施期間	2025年 11月 1日		～	2025年 11月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数)	5名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 12月 5日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員が意見を出し合いながら活動プログラムを検討し、事例検討や研修等を通して職員の専門性向上にも取り組んでいること。	支援開始前・終了後の打ち合わせを行い、職員間でその日の支援内容や子どもの様子、気付きを共有している。	子ども一人ひとりの興味・関心や得意なことをさらに把握し、「やってみたい」「楽しい」と感じられる活動の幅を広げる。
2	子どもが安心して過ごせるよう、活動内容を分かりやすく提示したり、必要に応じて個別の空間やクールダウンできる場所を確保したりするなど、環境面の工夫を行っていること。	必要に応じて併用園を訪問し、園との情報共有や相互理解を図っている。	保護者からの意見や評価を職員間で共有するだけでなく、具体的な改善につなげ、その結果を保護者にも分かりやすく伝えていく。
3	ランチ会や親子イベント等を通して、保護者同士が交流・情報交換できる機会を設けていること。	月1回のおたよりやInstagram等を活用し、活動内容や子どもの様子を保護者へ発信している。	職員間でPDCAサイクルをより意識し、支援や業務について「計画→実践→振り返り→改善」を継続的に行う。自己評価でも、PDCAへの意識がやや薄いこと。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育所・認定こども園・幼稚園等の地域の子どもたちと直接交流する機会が少ない。保護者評価でも、地域の子どもの活動について「わからない」という回答が一定数あり、今後の取り組みを考えていく必要がある。	併用園や関係機関との連携については実施しているものの、行事等の事業所側の予定によって訪問や交流の時間を確保しにくい場合がある。また、地域交流については、交流先との日程調整や安全面、人員確保等の課題があり、継続的な交流につなげることが難しい。	保育園・幼稚園・認定こども園等と連携し、無理のない範囲で交流活動や合同活動の機会を増やす。地域のイベントや他事業所との交流等、現在実施できている取り組みを継続・拡大し、地域とのつながりを少しずつ広げていく。
2	ヒヤリハットについて、発生時に記録を忘れることがあるため、記録・共有をより確実に行う必要がある。	日々の業務の中で支援を優先するため、PDCAやヒヤリハットの記録等を意識的・継続的に行うことに課題がある。	PDCAを職員会議や支援後の振り返りに取り入れ、「何ができたか」「何が難しかったか」「次にどうするか」を具体的に共有する。ヒヤリハットについては、記入しやすい仕組みや定期的な確認を設け、記録→共有→再発防止までを確実に行う。
3	午後のみの利用児の中には午睡が必要な子どももあり、個別活動や休息時間を十分に確保することが難しい場合がある。	利用児の年齢、発達段階、特性、利用時間等が多様であり、全員に適した活動を同時に提供することが難しい。	利用児の人数や特性、職員配置を踏まえ、活動内容やグループ編成を柔軟に変更できる体制を整える。